

サービスマーケティングの学びを通して

活動先：NPO 法人 ふれ愛

クラス：村上 徹也 先生

自分の成長とは、まず一つ目は福祉施設などヘルパー講座の実習で行った施設が、あまりにも良いものではなかったもので、今回もあまり老人介護施設など、あまりの思い出ができない、拒否反応を持っていましたが、ふれ愛といった施設にお邪魔することができて、今まで持っていた施設は閉鎖的なもの、寝たきり、ヘルパーさんはオムツをかえるだけで、すぐに次へいってしまう。という、自分がもし施設に入る年齢になる前にお迎えが来てもらいたいとまで、考えるものでしたが、少人数の方の施設だったら、職員さんも利用者の人とかかわる機会が増えるので、私はこのような施設だったら、福祉の道をすすんでみても少しはいいものだと思うことができた。

二つ目は、年齢が上の人と何日もかかわるのが、あまりなかったもので、今までとは違い顔を覚えてもらえたりしてもらえた。

気づいたことは、ただ、講義のなかでの話しを聞いて勉強するのだけれど、わからないことばかりだということがわかり、もっと専門的にも、人間きにも成長することが必要だということだと考えた。しかし、最初は、自分は顔が男見たいとか、ある利用者の方から嫌われてその人に背を向けるように座らせられたりした。そしてずっといる間、その人には気を使って過ごしていた。しかし、最後の挨拶のときにその人は社交辞令だったかもしれないですが、その人は拍手して送りだしてくれたことに、今思い出すと凄く嬉しかったです。自分が施設嫌いなことが、言葉にはださなかったけど伝わっていたのかなあと今思うと、つぎ行く時は、また、嫌われてようが、明るくお邪魔しに行きたいと思えるようになった。

三つめは、人の話を聞くときはメモをとる必要性が大切だということを教わった。しかし、何でも自分が施設のことを書いてる、と思う利用者の方もいたので、どうすれば悩むこともありましたが、場所を考えたりあまり、見えないようにする方法をとったりして、他の場所でも、その場所にあわせたメモの取り方などが必要なのかと思いました。

活動を通して見えてきたこと

一つめは、自分は福祉については、福祉大の学校の中はとりあえず障害を持っていても普通に大学生活を送ることができる。そのように考えているが、少し地元に出てくればその常識はなくなる。自分の住んでいるところのどこに点字ブロックが横断歩道にあるのか。名古屋駅周辺でさえ、点字ブロックや音が鳴るとこはほぼない。駅構内に唯一あるぐらいではないだろうか。

地域活動とあるが、目に障害を持った人が社会、地域にでるということだったが、まず外にでるにあたって、点字ブロックが最低信号機周辺にないことでは、危なくて外に出れないものだと私は思いました。そのためにも、お祭りなどをひらいて、その施設を知って

もらうことが大切だということもあるが、自分からでて知ってもらうということもいいのではないかと考えました。

二つめは、施設の中だけでは、地域の人ともかかわる機会が少なかったり、テレビの情報だけでは足りないものばかりだと思ったので、施設の外へでることも大切なことだと思ったので、地域の行事など、できることだけでもいいので、地域にかかわることができるようにすることで、施設の存在や、高齢者の人との、かかわりがいま家に高齢者がいなかったら、かかわることができない環境であるので、そこで地域の人もいろんな年齢の人とかかわる機会を作れることが、大切ではないかとおもいました。

2010年8月24日（火） ☛ ふれ愛での活動の様子



本で折り方を確認しながら利用者と一緒に折り紙を折る。